

令和 6 年 2 月 8 日

隠岐支庁 農林水産局 農業振興部

| | |
|-----|--------------------------|
| 標 題 | 「県農業士会会長と隠岐農業を考える研修会」を開催 |
|-----|--------------------------|

(ダイジェスト)

1月22日に隠岐島農業士会が主催となり、「県農業士会会長と隠岐農業を考える研修会」を開催しました。島根県農業士連絡協議会の藤井拓次郎会長を講師に招き、自身の農業経営や農業士活動に対する考え方について講演いただきました。講演後は、日頃の農業経営の工夫について参加者相互に意見交換を行いました。

隠岐島農業士会は、平成 29 年度当時は 8 名の会員がいましたが、以後、6 名の農業士が引退され、4 名が新規に農業士となられ、世代交代が進みました。一方、令和 2 年度以降はコロナ禍も相まって農業士会活動が停滞し、新規に農業士になられた方が農業士として役割を発揮する機会が少なくなっていました。

そのような中、コロナ禍が明けたことをきっかけに、農業士としての役割を再認識するとともに、農業士が相互に情報交換する場として、1 月 22 日に隠岐島農業士会の主催による「県農業士会会長と隠岐農業を考える研修会」を開催しました。この開催案内に際しては、隠岐地域の認定農業者等や関係機関を広く参集し、農業士活動の地域への周知を図りました。

研修会では、江津市で農業士として活躍されると共に、島根県農業士連絡協議会で会長を務められている藤井拓次郎氏を講師に招き、「マイナスからの出発 ～失敗から前進する農業へ～」と題してお話をいただきました。講演では、19 歳で就農して現在に至る歩みや経営方針について説明されました。先人が耕作してきた水田を預かる中、自らが 50 代となり、農地を未来に引き継ぎたいと思えるようになったこと、農業を続けていく上では地域との関わり合いが重要であること等、農業への熱意を語られました。また、農業士の役割については、地域と農政の橋渡し役であり、農業施策を知りつつ、農政に課題を提案する活動を心がけていること、農業士活動の中心は県や全国段階よりも地域であること等を語られ、参加者が農業士活動について改めて考える機会となりました。

講演後は、5 人前後のグループに分かれて、「ある隠岐の農家は、農業経営を良くするためにちょっとした工夫をしました。どんな工夫をしたのでしょうか？」をテーマに自らの農業経営を振り返りつつ、農業者同士が自由に意見交換を行い、隠岐地域の農業者の交流の場となりました。

隠岐島農業士会では、新規就農者に対する指導や就農相談ツアーにおける研修生の受け入れ等の活動を行っています。今回の研修会をきっかけに、農業士活動の地域への周知を図るとともに、地域農業の更なる振興に努めていきます。



研修会の様子



意見交換を行う参加者